

家族世帯×子育て世代の動向（ニーズ）

- 1 子育て世代：転居する機会のあるライフイベントが多い
→子供の成長をきっかけに転居する場合がある。
- 2 青梅市の状況①：家族世帯は転入超過で青梅が選択されている
→ここをさらに伸ばしていく取り組みは効果的と言える。
□「異動人数別 転入・転出現状分析（令和3年度・青梅市）」
- 3 青梅市の状況②：青梅への転入理由は「住居取得」をきっかけとした転入者が最も多い
☑「青梅市に転入した理由」で「住宅の都合（購入、借家の借）」が25.8%
☑「転入先に青梅市を選んだ理由」で「住宅購入費・賃料が手ごろだから」が31.4%で最も多く、ほかに「自然環境がよいから」28.6%や「希望していた広さの住宅があったから」19%が多い。
→良い住環境が手ごろに得られるところが青梅市の強みの一つ。
□「定住・移住に関する意識調査（平成27年度・青梅市）」
- 4 ライフスタイルの変化：家族と過ごす時間が増えたいし、それを保ちたい
☑2019年12月（感染症拡大前）と比較して家族と過ごす時間が増えた48.6%、それを保ちたい88.1%
→住宅で過ごす時間が増えているので、青梅の住まいの広さの強みが生かせる（住宅・土地統計調査によると平均床面積が都と比較して広い）
□「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査（令和2～3年度・内閣府）」（以下、内閣府調査）
- 5 子育て世代の意識：住宅の広さや間取りが最も重要
☑子育て世帯に適した住まいや住環境の要素として「住宅の広さや間取り」33.9%
□「都政モニターアンケート」（令和元年度・東京都）」
- 6 子育て世代が求めるもの：自然環境を活かした保育・教育
☑子供の自然体験不足を認識している親は66.5%
☑地方への移住・転職をしたい親は41.2%
☑地方への移住・転職などを行う場合、保育園・幼稚園の条件として、「自然環境を活かし、子供の五感、生きる強さ、主体性を育成する保育・教育のある環境」が87.2%
□「都市地域に暮らす子育て家族の生活環境・移住意向調査（平成28年度・NTTデータ）」

2人世帯×若者世代の動向（ニーズ）

- 1 2人世帯：転居する機会のあるライフイベントが多い
→結婚、同棲や妊娠、出産で、転居する場合がある。
- 2 青梅市の状況：2人世帯は転入超過で青梅が選択されている
→ここをさらに伸ばしていく取り組みは効果的と言える。
□「異動人数別 転入・転出現状分析（令和3年度・青梅市）」
- 3 移住への関心：特に東京23区在住の20歳代で高まっている
☑東京都23区の20歳代の地方移住に関心がある割合48.2%
□「内閣府調査」
- 4 関心の理由：自然豊かな環境を求めている
☑「人口密度が低く自然豊かな環境に魅力」が35.1%で最も多い
□「内閣府調査」
- 5 若年世代の変化①：本格的な趣味を求めている
☑「新たに挑戦、取り組んだこと」で「本格的な趣味」が若年世代の回答で高い傾向（10代30.8%、20代25.4%、30代15.2%）
→青梅市の自然（山・川・農業等）は良い資源になる。
□「内閣府調査」
- 6 若年世代の変化②：起業や副業への関心の高まり
☑副業を実施している・副業に関心がある20代75.4%、30代72.7%
→創業支援だけではなく、副業支援も需要があり、今後、起業につながる可能性もある。ここへの取組は先進事例になりうる。
□「内閣府調査」
- 7 移住先：青梅を含むエリアが人気
☑都民が移住したいエリアの1位は青梅を含む「【東京都】八王子・奥多摩エリア」
→青梅なら都心で働きながらの移住も可能なエリアで人気か。
□「東京都民が移住・二拠点居住したいエリアランキング」（令和2年度・リクルート）」

まとめ

2人世帯や家族世帯は、転居を必要とするようなライフイベント（同棲・結婚・出産・子供の成長等）の発生が多い。コロナ禍で、「テレワークの拡大という社会の変化」と「地方移住してみたいという意識の変化」があり、地方移住も可能な時代へと変化してきている。特に若年世代にその傾向が強く出ている。